

平成28年度 提案型協働事業制度

■ 制度の目的

本制度は、地域課題や社会的課題の解決に向けた市民・行政双方向の協働の取組を進めるため、市民からの提案をもとに市民と行政がそれぞれの特性を生かし、認め合いながら、協働して地域課題の解決を図ることを目的とする。

■ 制度の概要

市民団体に次のような事業提案を募集し、提案団体と関係課の協議及び選考会を経て採択された事業を平成26年度の事業としてモデル的に実施する。

- ◇ 公益性、社会貢献性があり、地域課題や社会的課題の解決が図れる事業
- ◇ 市民と行政が適切に役割分担でき、協働による相乗効果が期待できる事業
- ◇ 市の事業として現在確立されていない事業
- ◇ 先進性、先駆性等、工夫やアイデアがあり、市民の視点から企画された事業
- ◇ 尼崎市の総合計画の方向性に沿った事業

【選考結果】

■ 審査委員

- 学識経験者 久 隆浩 (ひさ たかひろ)
近畿大学総合社会学部 教授
- 学識経験者 海士 美雪 (かいし みゆき)
神戸ライトセンター運営協議会 代表
- 市民代表 桑山 信子 (くわやま のぶこ)
公益社団法人長寿社会文化協会地域活動ポイント WACゆずり葉代表
- 税理士 小早川 典子 (こばやかわ のりこ)
小早川典子税理士事務所 所長
- 市民代表 松井 定雄 (まつい さだお)
尼崎市市民運動推進委員会 副委員長



11月30日締切 提案		関係課 提案団体と関係課の協議		3月2日開催 プレゼン審査会 審査委員意見		結果
行政提案型	みんなのサマーセミナー実行委員会 (代表 加藤 学)	協働・男女 参画課	2月26日協議	○今後も継続できる取組になるよう工夫してほしい。 ○30代～50代の参加者が多いのでシニア層の来場者も増えるようなプログラムを取り入れてほしい。 ○市民活動の担い手や後継者不足が問題になっている中で、本事業の学習を通じて意図して地域の力や市民力に結びつくような工夫したプログラムにしてほしい。 ○今後ますます市民力の重要性が高まる中で、協働事業として公共・公益を学び、市民力を醸成するワークショップ形式の講座があれば良い。 ○本事業に参加した講師が公民館事業の講師として活躍の場が広がるなど講師や講座の見本市として今回の事業を上手く活用し、生涯学習や社会教育の在り方を変えていければ良い。 ○全て無料の講座にするのではなく、おススメの講座等を有料にすればひとつのプライオリティになる。 ○実行委員会のメンバー全員が役割や負担を分担できることが理想である。また、そのような実行委員会の在り方自体のモデルになってほしい。 【結論】 趣旨も手法も問題ない。	原案通り、採択	
	事業名: みんなのサマーセミナー 「ひと咲き まち咲き あまがさき」と、尼崎市総合計画のキャッチフレーズにあるように、市内にはキラリと光る経験を持つ人が多くいるものの、その人の魅力を他の人に伝えることができる場があまりない。また、市内には多くの「学び」の場があるが、講座をしている者同士の連携や情報共有が十分に取れていないと感じる。そこで、尼崎市市内の方や尼崎市を訪れる市外の方を相手に市内の学校を借りて、夏休みに市民、民間、行政が「学び」を提供しあう場をつくり、普段出会わない学びと出会うきっかけとする。また、普段教える側にならない人が教える側になることで、さらに自身の学びを深めるとともに、講座の提供主体が集まることで、新たな連携やつながりが生まれる。	関係課	[協働・男女参画課、社会教育課] ・まちづくりにおいて「学び」が重要な要素であるということをお互いに共通認識を持っていることが確認できた。 ・第1回目の開催にあたっては、センセイが想定していた以上に集まり、このような場が必要とされていることが分かった。 ・市民団体と行政がお互いの得意分野を出し合うことで、「学び」の対象の裾野が広がったり、様々な人が出会うきっかけとなることが期待できる。 ・第3回目(平成29年)以降の実施体制については、未だ検討段階である。			
行政提案型の 役割の	・連絡調整(問い合わせ対応含む) ・庁内各課や関係団体の巻き込み ・企画運営への参加					